


# 2022年度 活動報告書

2023年 3月

 公益社団法人 日本バリュー・エンジニアリング協会  
東日本支部

# 目 次

## 支部全体の取り組み

---

2022 年度活動報告	1
イベント開催レポート	2
東日本支部の部会活動に関するアンケート（抜粋）	3

## 各部会の取り組み

---

VE 推進部会	6
マーケティング部会	7
R&D部会	8
ものづくり部会	9
社会インフラ部会	11
VE 情報交流部会	12
資材調達部会	13

## 研究会の取り組み

---

VE 初心者のためのスキルアップ研究会	14
---------------------	----

# 東日本支部【全体】 2022 年度活動報告

2023年3月8日  
支部長 薄衣 光明

## 1. はじめに

東日本支部の代名詞となっている「部会活動」も2002年の発足から20年が経過しました。今年度もコロナ禍での活動を強いられましたが、『ニューノーマル時代の活動スタイルにチャレンジ』の掛け声のもと、オンラインの強みを生かしつつ、弱みをカバーするような支部運営を行っています。

当支部ではここ数年、参加メンバーの「高齢化」「固定化」「高度化」という構造的な問題が表面化していましたが、VE導入を検討している企業向けの「VE情報交流部会」、今や少数派となっている資材調達・購買業務に携わる方々を対象とした「資材調達部会」の新規立ち上げが奏功し、偏ったメンバー構成にも改善の兆しが見えてきたところです。(下記参照)

- ① 30歳台と40歳台の若手メンバーが大幅に増加(全体に占める割合: 昨年16%→今年23%)
- ② 初めて活動に参加するメンバーが大幅に増加(全体に占める割合: 昨年13%→今年24%)
- ③ VEリーダー資格者の参加が大幅に増加(全体に占める割合: 昨年17%→今年32%)

また、VE初心者や若手のリーダー層を対象とした研究会《通称: VE寺子屋》も継続しており、『VEを使えるようになる』を合言葉に実践・活用に関するカンコツを学んでもらっています。これらの取り組みを続けることで、若手層と新規メンバーの拡充につなげていきたいと考えています。

来る2023年度も『ともに学び、ともに創る』を基本方針に掲げ、協会事務局との連携を意識しつつ、全員参加による部会運営によってVEを新たなステージに進めていきたいと考えています。

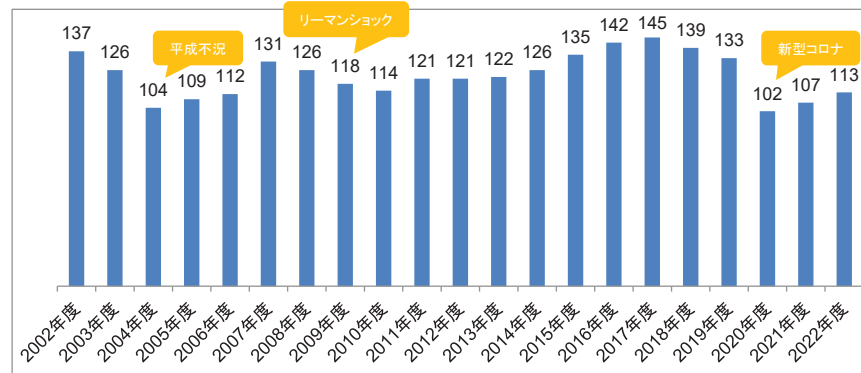
## 2. 今年度の取り組み

### 1) 部会構成と登録人数 (2023年1月31日現在)

(部会名)	(主査)	(副主査)	(登録人数)
① VE推進部会	大久保	内村	22名
② マーケティング部会	神田	清水弘	9名
③ R&D部会	野嶋	渡邊・有住	10名
④ ものづくり部会	下村	田谷・宮田	22名
⑤ 社会インフラ部会	木守	薄衣・曽我	16名
⑥ VE情報交流部会	高橋	関田	11名
⑦ 資材調達部会	谷口	小林・瓦間	23名

コロナ禍による  
メンバー減少に  
歯止め

**トータル 113名**



部会登録人数の推移

### 2) VE初心者・若手リーダー層を対象とした研究会

- ・名称: VE初心者のためのスキルアップ研究会 (通称: VE寺子屋)
- ・主査: 佐々松音 (MSバリューコンサルタント 代表)
- ・内容: VE実践における「学びの場」と「気づきの場」を提供し、懸案である若手層の参画を拡大することによって支部活動のさらなる活性化をはかる。
- ・参加者: 7名 (20歳台: 1名、30歳台: 2名、40歳台: 3名、50歳台: 1名)

### 3) 支部全体行事

- ① 技術交流会: 関心の高い要素技術や話題のテクノロジー、マネジメント手法で知られる企業との交流を通じ、情報のアップデートをはかる。(ものづくり部会とのコラボ)

	内 容	開 催 日	見学先・交流先	参加者
1	オンライン施設見学 (研究設備と研究内容)	9 / 8	国立研究開発法人 物質・材料研究機構 (NIMS)	28名
2	ケミカルリサイクルに 関する技術・情報交流	11 / 25	株式会社 JEPLAN	21名
3	樹脂加工に関する技術・ 情報交流	2 / 8	南デザイン株式会社	77名

- ② 活動報告会: 各部会、研究会の取り組み内容ならびに活動成果の一端を紹介し、ノウハウの開示と参加メンバーの拡大をはかる。

- ・日時: 3月6日(月) 13:00~16:00
- ・会場: 完全オンライン
- ・内容: 部会および研究会の活動報告、特別講演
- ・対象者: 東日本支部の活動に興味のある方、参加を検討している方(会員に限定せず)
- ・参加者: 155名

### 4) 活動報告書の発行

- ① VE特別資料(研究成果を報告書にまとめ、協会ホームページから無料ダウンロード)

	タイトル	編著者	発行日
1	DX導入成功のためのシナリオ	ものづくり部会	3月6日

### 5) 部会活動に関するアンケート調査の実施

- ◎目的: 部会活動に対する期待や満足度、問題点や課題を抽出し、今後の運営に役立てる。
- ◎対象者: 2022年度の部会登録メンバー
- ◎実施期間: 2023年1月6日~1月13日
- ◎回答者数: 96名(回答率85.0%)

### 6) 支部活動の企画・推進・調整に関する会議の開催

- ① 運営企画会議[支部運営全般に関する相互調整と企画推進]: 支部長・副支部長・部会主査

	開催日	主な議題	出席者
1	11 / 18	各部会・研究会の活動報告、活動報告会の開催について、来年度の取り組みについて、オンライン方式の継続について	12名
2	2 / 7	新年度の推進体制について、アンケートの結果分析、新年度に向けてのアクションについて	12名

以上

## 東日本支部が物質・材料研究機構【NIMS】のリモート見学会を開催

投稿日：2022年9月13日 カテゴリ：イベント, 支部のイベント開催レポート

去る9月8日、東日本支部ではおよそ2年半ぶりとなる事業所見学会をリモートで開催しました。

今回、受け入れてくださったのは国の研究機関である **物質・材料研究機構【NIMS】** で、物質・材料に関する基礎研究および基盤的研究開発を行うほか、**NIMSオープン・ファシリティ**と称した研究設備の共用と無料相談サービスを幅広く展開しています。

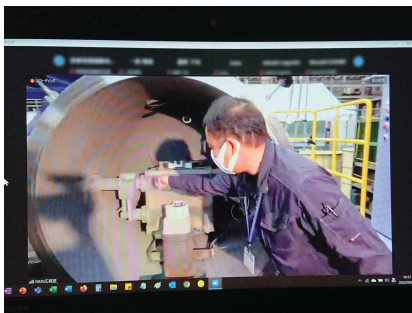
リモート開催の特性を生かし、当日は東北から関西まで30名近い関係者が参加。共用設備の仕組みをはじめ、真空溶接炉や鍛造・圧延装置の依頼例、最新の電子顕微鏡を活用した取り組みなどを紹介いただきました。施設内にライブカメラが入り、それぞれの現場から担当者が説明してくださったので、臨場感あふれる画像が非常に印象的でした。

参加メンバーからは、『リモート参加であることを忘れてしまうような内容だった』『ニューノーマル時代の到来を実感できた』といった声が聞かれ、工場見学会のリモート開催の可能性を見出すことができました。

東日本支部ではこのような会合を定期的に開催し、メンバー相互の情報交流を積極的に進めています。皆様も **東日本支部の各種活動** にぜひご参加ください。



NIMS紹介動画の一コマ



ライブカメラを用いた保有設備の紹介

### 関連するページ

- 東日本支部が事業所見学会「あなたの知らない物流センターの世界」を開催
- オープンイノベーション最前線～東日本支部が定例の事業所見学会を開催
- 「次世代移動通信（5G）の可能性を探る」東日本支部が事業所見学会を開催（2018.9.4）
- 東日本支部が事業所見学会「あなたの知らない金属加工の世界」を開催（2018.5.31）

プライバシーポリシー

## 東日本支部が技術交流会「あなたの知らない樹脂加工の世界」を開催！

投稿日：2023年2月6日 カテゴリ：イベント, 支部のイベント開催レポート

### 新しい活動スタイルにチャレンジ

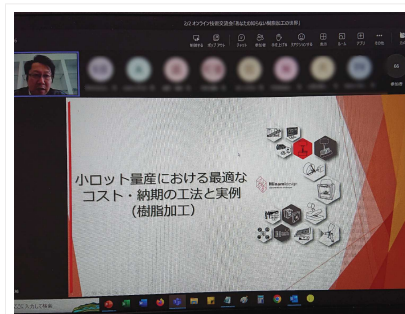
コロナ禍における「ニューノーマル時代の活動スタイル」にチャレンジしている東日本支部では、去る2月2日、今年度4回目となる技術交流会をオンラインで開催しました。

この技術交流会は、ものづくり部会の全面協力で定期的で開催しており、受入企業にとっては技術アピールやマッチングの場、参加メンバーにとっては技術的知見をアップデートできる貴重な機会になっており、これまで接点が無かった地方のモノづくり企業や海外メーカーとの交流も期待されています。

### 樹脂・プラスチック製品の各種工法とコスト比較

今回、協会メンバーとの技術・情報交流を引き受けてくださったのは、『設計開発から試作、金型による成形までワンストップで支援!』という旗印のもと、樹脂・プラスチック製品の加工、デザインモデル・ワーキングモデルの製作を行っている **南デザイン株式会社** 様です。

当日は各社の試作設計部門や資材調達部門など、80名近い関係者が参加。切削加工や光造形、真空注型、簡易金型、射出成形の概要をはじめ、メリットやデメリット、リードタイムの違い、工法別・台数別のコスト比較など、**専門メーカーならではの視点**で懇切丁寧に解説していただきました。作業場や生産設備をあらかじめカメラで録画し、担当者が説明していく「バーチャル工場見学」も臨場感があってたいへん好評でした。



開発支援事例や保有技術の紹介



バーチャル工場見学の一コマ

東日本支部ではこのような会合を定期的に開催し、メンバー相互の技術・情報交流を積極的に進めています。皆様も東日本支部の各種活動にぜひともご参加ください。

## 2022年度 東日本支部の部会活動に関するアンケート 集計結果

- 目的 部会活動に対する問題点や課題などを抽出し、今後の運営に役立てる。
- 対象者 2022年度の部会登録メンバー（7部会トータルで113名）
- 回答期間 2023年 1月 6日～ 1月13日
- 回答者数 96名（回答率 85.0%）
- 回答方法 インターネット上のアンケート作成ツール「CustomForm」を利用（無記名）

### あなたが所属する部会は、次のどれに該当しますか？

VE推進部会	20	
マーケティング部会	7	
R & D部会	10	
ものづくり部会	17	
社会インフラ部会	12	
VE情報交流部会	10	
資料調達部会	20	

### あなたが所属する企業・団体の業種は、次のどれに該当しますか？

製造業	49	
建設業（含・建設コンサルタント）	10	
インフラ関係（電力・ガス・道路・鉄道等）	5	
サービス業（IT・流通・外食等）	2	
教育機関（大学・専門学校等）	3	
自営業（個人コンサルタント等）	22	
その他（上記以外）	5	

### あなたの役職（職位）は、次のどれに該当しますか？

経営者・役員相当	16	
部長相当	14	
課長相当	26	
主任相当	13	
一般職	12	
その他（上記以外）	15	

### あなたの年齢は、次のどれに該当しますか？

20歳代	0	
30歳台	12	
40歳台	10	
50歳台	37	
60歳台	25	
70歳以上	12	

### あなたの勤務地（個人の方は自宅）は、次のどれに該当しますか？

東北エリア	2	
関東エリア	77	
中部エリア	3	
関西エリア	13	
中四国エリア	1	

### あなたが保有するVE資格は、次のどれに該当しますか？

CVS	32	
VES	26	
VEL	31	
なし	7	

### 部会活動への参加は、今年度で何年目になりますか？

1年目	23	
2年目	11	
3年目	3	
4年目	5	
5年以上	54	

### 質問1 部会活動に参加した動機または目的は、次のどれに該当しますか？【いくつでも】

業務に活用できる情報を得るため	76	
VEおよび関連技法に対する理解・知識を深めるため	60	
人的ネットワークを広げるため	63	
自己研鑽・スキルアップのため	62	
VE技術・手法を深く学ぶため	37	
日常業務に対するモチベーションアップのため	23	
上位資格（CVS・VES）にステップアップするため	8	



**質問13 部会のオンライン開催で感じた「デメリット」は、次のどれですか？【いくつでも】**

参加者の表情や反応、雰囲気や伝わりづらい	63
メンバーと交流したり、親睦を深めることができない	75
アイデアの幅を広げたり、意見を集約するのが難しい	35
参加者の発言に集中するため、リアル会議よりも疲れる	19
音声トラブルがたびたび発生し、会議の進行が妨げられる	10
会議に参加する場所を確保するのが一苦労	9
特にデメリットは感じていない	10
その他（上記以外）→質問14へ	6

**質問14 質問13で「その他」と答えた方は、オンライン開催で感じたデメリットを教えてください。**

- ・工場などは直で見てみたい気持ちはあります。
- ・理解を得るために話が長くなるなど、議論に時間がかかる。(同様1件)
- ・ワイガヤの要素をうまく組み込めない。
- ・ものづくりはやはり現場・現物・現実。オンラインのメリット以上に三現主義は重要で、最大の学習のチャンスです。

**質問15 新年度の会議方式について、次のどれを希望しますか？**

コロナの状況に関わらず、新年度もオンラインで開催してほしい	23
コロナが収束すれば、リアル開催（対面方式）に戻してほしい	5
参加できる人はリアル、参加できない人はオンラインのハイブリッド方式がいい	68

**質問16 新年度の活動参加について、あなたのご意向はいかがですか？**

より積極的に参加したい	22
今年度のレベル程度で参加したい	47
現時点ではわからない（人事異動や組織変更などの影響も含めて）	23
会議方式に関わらず、今年度の活動内容であれば参加を見合わせたい	0
オンラインが続くのであれば、参加を見合わせたい	1
社内事情または個人的な事情のため、たぶん参加できない	3

**質問17 あなたが所属している部会において、気になる点や是正してほしいことがあれば記入してください。**

- ・参加のみで発言をしない人もいる。部会参加資格をもう少し明確にした方が良いかもしれない。
- ・新規の参加企業や団体の方々が増えるような施策を期待したいと思います。
- ・最初に設定されたテーマが1年間続いたが、途中で見直しがあってもいいと感じた。
- ・現在、部会の人数が10名の為、人数を増やす方が必要と感じています。
- ・議事録の発行が遅れる場合があり、欠席した場合に困る。
- ・部会の目的や方向性をあらためて定義し、より実りのある会にしていきたい。

**質問17 あなたが所属している部会において、気になる点や是正してほしいことがあれば記入してください。**

- ・発言者が偏っており、いつも同じ人が口火を切る。しゃべりすぎる。
- ・オンラインでは、受入企業がアピールしたいところしか見えない。いろいろみたい。現場も倉庫も、ゴミ箱も・・・
- ・もう少し、年間計画を明確にしたかった。
- ・VE入門の部会と聞いていたがレベルの差が大きと感じた。
- ・特定のメンバーが数十分も発言することが多いため、1回あたりの発言時間を制限してほしい。
- ・若い人が少ない。口は出すが自らは動かない人がいる。
- ・主査と副主査の熱心なリーダーシップにより毎回充実した活動が出来ており、満足している。敢えて希望を言えば、20代30代の若手メンバーが増えることを願っている。
- ・資料調達部会でホームページを作れば、競合する調達フォーラムや購買ネットワーク会同様に、協会外部から集客ができると思う
- ・オンラインの工場見学会は素晴らしい企画なので大変よい。
- ・出席者全員の発言を基本としているが、話題によっては偏りが生じている。進行の流れで適宜、順不同で問いかけを行う工夫がされているが、ブレイクアウトルームなどを利用してグループワークを取り入れてみたらさらに活性化すると思います。
- ・VE推進部会は進行が素晴らしく、ファシリテートの仕方に関してもとても勉強になります。その一方、先進的な進化や研究要素（DX、AI化等）に関しての踏み込みが少なく、将来的な不安を感じます。
- ・明確なOUTPUTを作成できなかった（自身も目的を持って参加していなかった）ので、次年度は目的を明確した方が良いかもしれません。

**質問18 協会全般、または支部活動に対するご意見やご提案がありましたら自由にご記入ください。**

- ・新たなメンバーの参画のため、部会活動のアピールや参加しやすい雰囲気づくりができればいいと思います。
- ・コロナの状況にもよりますが、リアル工場見学の開催が待ち遠しい。来年度はハイブリッド前提のテーマ選定も必要と考える。
- ・3月の部会の活動報告会はオンライン開催のメリットを生かして、会員以外にもオープンにしてはどうか。
- ・VE協会として会員数の拡大策を考え、会員の拡大を進めて欲しい。
- ・ものづくり部会のリダー各位がたいへん前向きで、ご尽力いただき感謝です。
- ・当方遠隔地のため、ハイブリッド開催にしていただければ幸いです。リアルのみになると東京までの移動が困難となり、参加は見合わせるようになります。
- ・初回と最終回をリアルで開催、そのほかをオンライン開催とするのは如何でしょうか？
- ・現状、本業の業務停滞で自分自身のモチベーションが維持できないことが問題です。
- ・前年度のアンケートで何に反映させ、その結果がどうであったかを広報したらよいと思う。
- ・対面で会議、懇親会などできるようになると良いですね。
- ・各社の状況、課題は異なるため、情報交換に特化した部会を作ってもいいかも。
- ・毎年アンケートを行っているが、単なる集計結果の発表に留まっているのでは？（手段の目的化）このアンケートがどのように活用されて、どのような効果（活動活性化への貢献、参加者の意欲向上等）があったのか、具体的な説明をしてください。
- ・コロナ禍が続く、少しマンネリ感がある。
- ・コロナが続くと色々難しい。
- ・「新・VEの基本」を改訂して欲しい。もう遅いかもしれないが、変わる勇気を持ちたい。VEの進化を望みます。
- ・VEの基本的理念&スキルの低年齢層への浸透と裾野拡大への積極展開を切に望む。
- ・協会理事や支部長の所属企業が自社の調達部門のメンバーを資料調達部会に参加させるよう、事務局は働きかけるべきである。
- ・「VE資格者数を入札要件に含める」など、VEの活用が必須となるように発注者に働きかけていただきたいです。
- ・オンラインのコンテンツはかなり充実してきたと思います。社会貢献活動やメディア戦略によって、VE活動・VE資格の周知をさらにすすめていただきたい。

以上

## VE推進部会 2022 年度前期活動報告

2022 年 10 月 12 日  
主査 大久保 匠

### 1. 部会活動主旨

企業内の改善活動事務局や、教育・訓練・研修を目的とした企業内スタッフ部門、コンサルタント会社などに所属の方々を対象として、VE 推進・実践に関わる課題の共有と克服を目的に、2つの研究会で活動している。メンバーは新規3名復帰1名を迎え22名での活動となっている。部会活動は「ギブ&テイクの精神」を基本とし、メンバー同士の活発な意見交換によるノウハウの蓄積と、活動成果の拡大を目指している。

### 2. 部会活動実施内容

#### ◎全体会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・【全体推進：大久保 匠】

目的：部会メンバー全員による情報交換と活動調整

開催日：4/13(18名) 初回会合欠席者は、参加時に研究会内にて個別に自己紹介を実施した。

内容：1) VE 協会 支部活動紹介、昨年までの活動経過と内容紹介、メンバー自己紹介等  
2) 全体会議は初回のみとし、各研究会の中で必要情報(VE 全国大会、VE フォーラム、VE 関西大会、VE 西日本大会、VE 京滋セミナー等)の周知を行っている。

#### ◎【A】VE普及推進研究会・・・・・・・・・・【研究会リーダー：大久保 匠】

研究会の目的：VE普及推進を目的としての課題の解決研究

開催日(参加人数)：内容 (各回13:00-15:00: Teamsによるリモート会合)

- 4/13(18名): 昨年の活動共有。テーマ案：提案後のフォローアップ・代替案促進の吟味。
- 5/10(15名): 「VE提案後のフォローアップのあるべき姿」ということで情報収集。
- 6/14(15名): 新メンバーも活発に事例紹介に参加。VEプロジェクトの形態について検討。
- 7/12(14名): プロジェクトをPUSH型・PULL型にわけて、事例について議論。
- 8/9(13名): プロジェクトをいかにPULL型へ持っていかを議論。事例研究継続。
- 9/13(14名): プロジェクト形態を吟味。定義・特徴・周りの反応、関連部署の係争性を検討。  
※後期は、整理されたVEプロジェクトについて、モチベーションを下げずに、フォローアップする推進側の施策・メニューを整理する。SAVEのVMガイドからの気付きも得る予定。

#### ◎【B】VE実践・活用研究会・・・・・・・・・・【研究会リーダー：内村 浩之】

研究会の目的：VE実践および活用を目的としての課題の解決研究及び事例紹介

開催日(参加人数)：内容 (各回15:00-17:00: Teamsによるリモート会合)

- 4/12(15名): 2021年度の振り返りと2022年度の活動テーマについての意見交換。
- 5/10(14名): 今期のテーマについての進め方、着地点などの意見交換。
- 6/14(11名): ファシリテーション苦戦事例を各自紹介、事例の改善についての意見交換。
- 7/12(13名): 6/14と同じ内容。
- 8/9(11名): 6/14と同じ内容、事例のまとめ方整合。
- 9/13(12名): ファシリテーション苦戦事例の共有と改善(案)の意見交換。

※後期は、ファシリテーション苦戦事例の共有と改善(案)の充実を図り整理する。  
その後、各社オンライン状況を踏まえオンライン対応についても議論する予定。

以上

## VE推進部会 2022 年度後期活動報告

2023年3月6日  
主査 大久保 匠

### 1. 部会活動主旨

企業内の改善活動事務局や教育・訓練・研修を目的としたスタッフ部門、コンサルタント会社などに所属の方々を対象として、VE 推進・実践の課題共有と克服を目的に、2つの研究会で活動。登録メンバーは前期同様に22名で、部会創立来の「ギブ&テイクの精神」を基本に、VEプロジェクトに関する課題抽出と施策について活発な議論を展開している。VEの普及・推進のノウハウの蓄積と、VEプロジェクトの活動成果の拡大を目指している。

### 2. 部会活動実施内容

#### ◎全体会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・【全体推進：大久保 匠】

目的：東日本支部支部活動の部会メンバーへの共有と活動調整、

内容：1) 全体会議は各回研究会の冒頭に情報の共有をはかった。  
2) 全国大会の実施状況：事務局からオンデマンド配信、再生回数等の紹介。  
3) 主査会議の報告。報告会テーマの策定・承認。来期体制の立案と承認。

#### ◎【A分科会】VE普及推進研究会・・・・・・・・・・【リーダー：大久保 匠】

研究会の目的：VE普及推進を目的としての課題の解決研究

今年度テーマ：『VEプロジェクトのタイプ別フォローアップ施策』

開催日(参加人数)：内容 (各回13:00-15:00=Teams開催)

- 10/11(14名): VEプロジェクト形態網羅。PUSH型2形態とPULL型の定義。
- 11/15(16名): プロジェクト形態別の「事例・特徴・問題・施策」まとめ表フォーム検討。
- 12/13(14名): フォローアップ段階=実現化推進のための支援活動として問題点と施策に。
- 1/10(15名): プロジェクトの形態別の問題点と施策をメンバーより集約。フォーム修正。
- 2/14(17名): 活動報告会資料のレビュー。来期テーマ案のディスカッション。  
★来期：テーマ案「VMガイド参考にDXを視野に入れたVE推進部門のあるべき姿」  
新しく、伊藤副主査をリーダーとして、VE普及推進の課題を研究していく。

#### ◎【B分科会】VE実践・活用研究会・・・・・・・・・・【リーダー：内村 浩之】

研究会の目的：VE実践および活用を目的としての課題の解決研究+メンバーより事例紹介。

今年度テーマ：『ファシリテート苦戦場面と対処法』

開催日(参加人数)：内容 (各回15:00-17:00=Teams開催)

- 10/11(11名): ファシリテート苦戦事例の共有。改善案について議論。メンバーアンケート。
- 11/15(11名): ファシリテート苦戦事例の共有。改善案議論継続。まとめ方、検討。
- 12/13(10名): ファシリテート苦戦事例48抽出と重みづけ。困り度に見える化を議論。
- 1/10(13名): スキル表との繋がり共有。PDCA事象フェーズの分析と考察。
- 2/14(17名): 活動報告会資料のレビュー。来期テーマ案のディスカッション。  
★来期：テーマ案「アイデアを生み出す実践的発想の進め方とファシリテーション」  
継続して、内村副主査のもと、手法に関するノウハウの蓄積をすすめていく。

以上



## マーケティング部会 2022 年度前期活動報告

2022 年 11 月 18 日  
主査 神田 之裕

### 1. 部会活動主旨

引き続きコロナ禍の影響で、毎回オンライン会議で実施となった。  
今期は昨年度まとめた「機能別 SNS 比較表」の検証と SNS 試行運用を目標に活動スタート。  
3 名の新規登録者と 6 名の減員で招集 8 名となった。

### 2. 活動テーマ

SNS の特徴を理解し VE の考え方や手法との融合可能性を探る。そのために上期に 4 大 SNS の比較を行い、下期どれか一つの SNS を試行運用してみる。

### 3. 部会活動実施内容

- 1) 部会メンバー数 : 8 名 (主査: 神田、副主査: 清水弘)
- 2) 出席率 : 前期約 80% (9 月末時点)
- 3) 上期活動内容と下期計画
  - ・機能別 SNS 比較表の検証のため企業の活用事例の研究
  - ・各メンバーから比較表の改訂点を提出してもらい比較表の更新により理解を深める。

月	日	曜日	時間	議題 (実践内容)	アウトプット確認	宿題 (予定)
4 月	20 日	水曜	13:30-15:30	今年度活動内容と日程の決定	狙い、目標、年間日程	企業の SNS 活用事例検証の方法案の事前検討
5 月	18 日	水曜	13:30-15:30	企業事例検証の方法案の決定	検証方法	企業の SNS 活用事例の情報収集
6 月	22 日	水曜	13:30-15:30	事例の発表と討議①	検証結果	同上
7 月	27 日	水曜	13:30-15:30	事例の発表と討議②	検証結果	同上
8 月	24 日	水曜	13:30-15:30	事例の発表と討議③	検証結果	検証結果のまとめ案
9 月	28 日	水曜	13:30-15:30	検証結果のまとめ案の発表と決定	検証結果のまとめ	立ち上げたい SNS と目的・理由の事前検討
10 月	27 日	木曜	13:30-15:30	立ち上げたい SNS 案の発表と決定	立ち上げる SNS 決定	立ち上げるための必要事項の情報収集
11 月	30 日	水曜	13:30-15:30	情報の発表および整理	情報収集の整理	SNS 立ち上げの目的案と活用方法案の事前検討
12 月	22 日	木曜	13:30-15:30	SNS 目的と活用方法の発表および決定	SNS 活用目的と方法の決定	SNS アカウントの立ち上げ (誰かが実施)
1 月	25 日	水曜	13:30-15:30	SNS 活用結果の検証と課題検討①	課題抽出	課題の検討
2 月	16 日	木曜	13:30-15:30	SNS 活用結果の検証と課題検討①	課題抽出	効果の検討
3 月	22 日	水曜	13:30-15:30	SNS 活用結果の効果測定	効果測定結果	

#### 4) その他

- ・運営点 ;
- ・・人数も少ないので毎回会議の前に近況など世間話的な時間も設け発言しやすい会議環境を整えている。
- ・・宿題の発表後に参加者の意見質問を順番に聞くような形で参加者が漏れなく発言する進行をしている。

以上

## マーケティング部会 2022 年度後期活動報告

2023 年 3 月 7 日  
主査 神田 之裕

### 1. 部会活動主旨

前期は企業事例の収集と機能別 SNS 比較表の更新が完了できた。  
後期は実際に SNS を試行運用のための準備と立ち上げを行ってきた。

### 2. 活動テーマ

SNS の特徴を理解し VE の考え方や手法との融合可能性を探る。そのために上期に 4 大 SNS の比較を行い、後期に SNS を試行運用してみる。

### 3. 部会活動実施内容

- 1) 部会メンバー数 : 9 名 (主査: 神田、副主査: 清水弘)
- 2) 出席率 : 前期約 70% (2 月末時点)
- 3) 後期活動内容と実績
  - ・ SNS 試行運用の準備計画
  - ・ SNS 立ち上げと運用の試行実施

月	日	曜日	時間	議題 (実践内容)	アウトプット確認	宿題 (予定)
10 月	27 日	木曜	13:30-15:30	立ち上げたい SNS 案の発表と決定	立ち上げる SNS 決定	立ち上げるための必要事項の情報収集
11 月	30 日	水曜	13:30-15:30	情報の発表および整理	情報収集の整理	SNS 立ち上げの目的案と活用方法案の事前検討
12 月	22 日	木曜	13:30-15:30	SNS 目的と活用方法の発表および決定	SNS 活用目的と方法の決定	SNS アカウントの立ち上げ (誰かが実施)
1 月	25 日	水曜	13:30-15:30	Twitter 告知とサイト内容について	告知分、サイト	Twitter の利用
2 月	16 日	木曜	13:30-15:30	SNS 活用結果の検証と課題検討①	課題抽出	効果の検討
3 月	22 日	水曜	13:30-15:30	SNS 活用結果の効果測定	効果測定結果	

#### 4) その他

- ・運営点 ;
- ・・ SNS の目的と手段の検討においては簡易的な機能系統図が活用できた。
- ・・日本 VE 協会の事務局 (渋谷さん、上杉さん) の多大な協力の元、何とか SNS の立ち上げと運用に漕ぎつけた。
- ・来期体制
  - ・・主査 4 年任期のため後任に副主査の清水ひろさんに引き継ぐことが決まった。
  - ・・副主査には SNS への関与度が比較的高いお二人に承諾を得ることができた。  
日立 ; 小山さん、日本機材 ; 都築さん
- 来期の体制も万全となり主査としては 3 月度の部会を最後に任期を全うする。

以上

## R&D部会 2022 年度前期活動報告

2022年10月28日  
主査 野嶋 泰資

### 1. 部会活動主旨

「参加メンバー皆様の役に立つ」を第一義に、これからの時代に対応するため、関連手法を含めた探究・研究・開発を実施し新たな手法や価値を創造します。

本年度も、主査：野嶋、副主査：渡邊・有住のもと、メンバー合計10名で、「未来洞察を活用した企画 VE（リーダー：渡邊）」の研究チームで活動しています。兵庫・仙台といった遠隔地からもご参加頂いており、議論活性化のため2つのチームに分かれてケーススタディーを行うなどしています。

### 2. 部会活動内容

#### ◇全体会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【主査：野嶋 泰資、メンバー：10名】

目 的：2022年度R&D部会活動の方針決定・横通し及び部会メンバーの情報交換を行う。

開催日：4/21 1回（オンライン会議）

内 容：1) VE協会 東日本支部活動紹介、自己紹介  
2) 活動方針や昨年度までの活動内容共有  
3) 会合日程・時間の確認：3時間×月1～2回とする

#### ◇A. 未来洞察を活用した企画VE・・・・・・・・・・・・・・・・・【リーダー：渡邊 清彦、メンバー：10名】

目 的：事業企画・商品企画といった開発の上流（企画段階）の価値向上を実現するため、「未来洞察」の方法論を活用し、昨年度に設定した「潜在機能の抽出」手順の仮説検証を行い、10年先の近未来に対し、顧客も想定していないような潜在的な要求機能を見出す方法を構築する。

開催日：4/21、5/25、6/16、6/29、7/20、8/26、9/14、9/28

合計 8回（オンライン会議、3時間/回）

内 容：1) 本年度活動目標の共有化（4月）

本年度参加の新規メンバーも交えて、円滑な活動を実施するため、昨年度までに実施した「未来洞察研究」の内容の振り返りを行った後、本年度の活動目標および活動予定を確認した。

2) 基本ステップ1（対象テーマの近未来仮説設定）の仮説手順の検証活動（5月～8月）  
対象テーマの10年先の近未来案を作成するための仮説手順に対し、手順の利欠点分析→欠点の克服→洗練化のプロセスを実施し、設定した手順の妥当性を確認した。  
進め方の改善案を基に、昨年度と同じケーススタディー（戸建住宅向け空調システム）の見直しを行うことで、より近未来のエッセンスが含まれた案にブラッシュアップできた。

3) 基本ステップ2（社会・環境変化仮説作成）の仮説手順の検証活動（9月）  
対象テーマから思考を離し、想定もしていないような近未来の仮説案を作成するために、社会や環境がどのように変化するかを検討する手順について、検証活動を開始した。

<今後の予定>

引き続き、「未来洞察を活用した企画VE」の検討として、設定した実施手順の妥当性を検証し、顧客も想定していない機能の抽出方法を構築する。

#### ◇B. その他

VE全国大会にて、当部会の活動を「潜在的な顧客要求機能の抽出方法の研究」と題して報告する予定。

以上

## R&D部会 2022 年度後期活動報告

2023年3月8日  
主査 野嶋 泰資

### 1. 部会活動主旨

「参加メンバー皆様の役に立つ」を第一義に、これからの時代に対応するため、関連手法を含めた探究・研究・開発を実施し新たな手法や価値を創造します。

本年度も、主査：野嶋、副主査：渡邊・有住のもと、メンバー合計10名で、「未来洞察を活用した企画 VE（リーダー：渡邊）」の研究チームで活動しています。兵庫・仙台といった遠隔地からもご参加頂いており、議論活性化のため2つのチームに分かれてケーススタディーを行うなどしています。

### 2. 部会活動内容

#### ◇全体会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【主査：野嶋 泰資、メンバー：10名】

目 的：2022年度R&D部会活動の方針決定・横通し及び部会メンバーの情報交換を行う。

開催日：1/20、2/8、2/22 3回（オンライン会議）

内 容：来年度のテーマ・進め方の検討

#### ◇未来洞察を活用した企画VE・・・・・・・・・・・・・・・・・【リーダー：渡邊 清彦、メンバー：10名】

目 的：事業企画・商品企画といった開発の上流（企画段階）の価値向上を実現するため、「未来洞察」の方法論を活用し、昨年度に設定した「潜在機能の抽出」手順の仮説検証を行い、10年先の近未来に対し、顧客も想定していないような潜在的な要求機能を見出す方法を構築する。

開催日：10/12、11/2、11/24、12/7、1/20、2/8、2/22、3/22

合計 8回（オンライン会議、ベース3時間/回）

内 容：1) 第55回VE全国大会における研究内容の発表

・「潜在的な顧客要求機能の抽出方法の研究」と題して、2019年度～2022年度の研究内容をVE全国大会の場で報告した。多くの方の聴講を頂け、改めてお礼を申し上げる。

2) 基本ステップ2（社会・環境変化仮説作成）の仮説手順の検証活動（10月～2月）  
・社会や環境が10年先の近未来にどのように変化しているかを仮説案として作成する手順に対し、手順の利欠点分析→欠点の克服→洗練化のプロセスを実施した。  
（検証の結果、一部手順の見直しを実施）

SDGsの17目標をもとに近未来の変化仮説案を作成する手順について、ケーススタディーを行うことで、現在は存在していない社会や環境の変化仮説を作成でき、設定した手順の妥当性を確認した。

3) 残りの基本ステップの仮説手順の検証活動（2月～3月）  
・本テーマは、部会の研究テーマとしては今期で終了を予定しているため、基本ステップ3（対象テーマの近未来仮説案作成）および基本ステップ4（顧客潜在機能の設定）については、ケーススタディーまでは実施せず、昨年度設定した手順の欠点分析（修正含む）のみ実施予定である。

<今後の予定>

今年度で一旦活動を終了し、来年度は部会の分科会（有志による活動）として基本ステップ3・4の洗練化およびまとめを実施することを計画している。

以上

## ものづくり部会 2022年度 前期活動報告

2022年10月29日  
主査 下村 盛章

### 1. 活動方針

双方向の“オンライン工場/施設見学会・技術交流会”を活動の柱に、Post コロナ/With コロナを模索

- ✓ オンライン環境下で、どのように「ものづくり」を学ぶかを考えながら活動
- ✓ 全員参加型活動(企画から運営まで)
- ✓ 参加企業・受入企業・VE 協会・加盟企業・加盟個人が “Win5”

### 2. 今年度の取組み

- ①オンライン工場/施設見学会・技術交流会
  - 双方向のオンライン工場/施設見学会。先進企業の新技術、製品、取組み紹介と意見交換会。
  - 西日本支部を含む他の部会活動への相互参加制度を拡充。
- ②ものづくりに関する勉強会
  - DX など、ものづくりに関わる新たなテーマに関する勉強会を分科会として開催。
- ◆ 活動方法
  - オンライン見学実施の先進的な企業、団体へのアプローチし、見学会・技術交流会を実施
  - コロナ終息後は、実際の見学会も検討

### 3. 後期の予定

- ①オンライン見学会の実施
  - 技術交流会・工場見学会を予定
- ②勉強会を分科会として開催
  - テーマ:生産現場へのDX 導入

#### <前期の活動状況>

No	開催日	参加数	会場	目的・訪問・交流先	概要
1	4月13日	15	オンライン会議	キックオフ	1)各自自己紹介 2)活動予定 3)次回見学会概要
2	5月24日	40	オンライン見学会	横河電機甲府工場様 オンライン見学会	1)ライン見学 伝送器、電子計測器など 2)生産ラインのカラクリ 3)設備保全システム
3	6月14日	12	オンライン会議	工場見学振り返り	1)自己紹介(前回不参加メンバー) 2)見学振り返り
4	7月25日	25	オンライン見学会	技術交流会 SCSK社 原価企画の進化	1)3D製造原価シミュレーション アプリオリ紹介 2)採用事例
5	8月24日	13	オンライン会議	技術交流会振り返り	1)見学振り返り 2)以降活動についての一人一企画説明
6	9月8日	33	オンライン見学会	国立研究開発法人 物質・材料研究機構 オンライン見学会	1)機構の概要 2)共用設備及び利用の枠組み紹介
7	9月14日	9	DX勉強会分科会	DX導入勉強会	1)今後の進め方

以上

## ものづくり部会 2022年度 後期活動報告

2023年3月1日  
主査 下村 盛章

### 1. 後期の取組み

- ①オンライン工場/施設見学会・技術交流会
  - 前期に引き続き2件の交流会/見学会を実施。そのうち1回は東日本イベントとしての開催。
- ②ものづくりに関する勉強会
  - DXに関する勉強会を実施。定例のほか分科会を2回実施してDX 導入のためのシナリオとしてまとめ。

### 2. 本年度の振り返り

- ①1 個流し組立てライン、原価シミュレーションソフト、国立研究法人の共用設備、樹脂ケミカルリサイクル、プラスチック製品小ロット量産と、多分野の見学及び交流会を実施できた。
- ②昨年に続き「関西活き活きVE 研究会」、さらに東日本の複数部会へも声かけを行い、コラボを実施。活動の幅を広げた。
- ③昨年の「DX べからず集(簡易版)」に加え「成功・失敗例」「機能系統図」を作成した。  
さらに、これらをまとめた DX 導入のシナリオをまとめた。

### 3. 来期予定

- ①見学会の実施
  - 技術交流会・工場見学会を予定
- ②勉強会開催
  - メンバーからテーマを新規募集し要望があれば開催する

#### <後期の活動状況>

8	10月6日	9	DX勉強会分科会	DX導入勉強会	1)各社成功例・失敗例 2)今後の進め方
9	10月13日	14	オンライン会議	オンライン見学会 振り返り	1)見学振り返り 2)一人一企画活動の共有
10	11月25日	21	オンライン会議	技術交流会 JEPLAN社 ケミカルリサイクル	1)樹脂リサイクルを取り巻く環境 2)技術紹介 3)今後の展望
11	12月13日	11	オンライン会議	技術交流会振り返り	1)交流会振り返り 2)過去見学先の再訪問検討(グループワーク)
12	2月2日	77	オンライン会議	技術交流会 南デザイン社 樹脂物小ロット量産	1)会社紹介 2)樹脂小ロット量産 3)動画による工場紹介
13	2月15日	12	オンライン会議	技術交流会振り返り DX導入まとめ	1)交流会振り返り 2)来期予定、方針 3)DX分科会成果共有

以上

## ものづくり部会（東日本支部）が研究報告書「DX導入成功のためのシナリオ」をリリース！

投稿日：2023年3月3日 カテゴリ：VE資料図書・新刊, お知らせ, トピック, 情報配信

### DX導入を成功させるためには

このたび、ものづくり部会（東日本支部）のDXワーキングチームの研究成果を「VE特別資料」にまとめ、ホームページのVE資料無料ダウンロードコーナーにアップしました。ぜひダウンロードいただき、貴社におけるDXの導入・推進にお役立てください。

VE特別資料の無料ダウンロードは [こちら](#) から

#### ■ 内容紹介

現在、多くの企業では経産省のDXレポート（2018年）に後押しされてDXの導入を進めている。その一方で、DXという言葉だけが先行して、その本質を理解しないまま導入を進める企業も多い。

そこで、当部会では2021年度にDXに関する各種レポートで述べられている「DXとは何を示すのか?」「導入を推進する背景は何か?」「導入成功のポイント」について勉強会を行い、DXの概要を確認した。その上で、部会メンバーの経験と想定からDX導入の問題、課題をリストアップして、成功するためのシナリオの逆張りをして「やってはいけないこと」と「やるべきではないこと」を体系化した「**DX導入べからず集**」を編纂した。

2022年度はさらに一歩踏み込み、部会メンバー各社およびweb上に公開されている**DX導入の具体的な失敗事例および成功事例**をまとめて事例集とし、その原因の深掘りから**DX導入成功のための機能系統図**を作成した。本報告書は、この事例集とDXべからず集を統合し、「DX導入成功のためのシナリオ」としてまとめたものである。

#### 1. DX導入成功のための機能系統図

■ DX分科会で集めたDX導入の失敗事例、成功事例を整理して、DX導入成功のための機能

DX導入成功のための機能系統図

#### 3. 実践の管理

べからず	説明
3.1 業務をデジタル化するとがDXと思っべからず	資料やデータのデジタル化はDX デジタル化した後にも必要を事前に考え、活用しやすい状態を必要がある。 既成の手段、方策の問題点、iでのDX化を進める必要がある。
3.2 問題、課題、その解決策などを明確にせず、DXに取り組むべからず	システムやツールなどの手段あり (失敗する)。 目的志向に徹し、業務の問題、理してから取り組む必要がある。

DXべからず集の一例

↑ ↑ ↑ ↑ ↑ 画像をクリックすると拡大できます

#### ■ 目次

##### § 1. DXの成功事例および失敗事例

- 1. DX導入成功のための機能系統図
- 2. DXの失敗事例
- 3. DXの失敗要因と対応策
- 4. 成功事例研究の内容

##### § 2. DX導入べからず集

- 1. 方針・目標の徹底
- 2. 組織の確立
- 3. 実践の管理
- 4. 成果の評価
- 5. 教育

東日本支部では切り口が異なる7つの部会を編成し、実務への応用展開を目的とした研究活動を積極的に進めています。皆様も東日本支部の各種活動にぜひご参加ください。

関連するページ

- [VE資料無料ダウンロード](#)
- [ものづくり部会（東日本支部）が「ケミカルリサイクル」をテーマに技術交流会を開催！](#)
- [ものづくり部会（東日本支部）が工場見学会をオンラインで初開催！](#)
- [ものづくり部会（東日本支部）が技術交流会をオンラインで開催！](#)

## 社会インフラ部会 2022 年度前期活動報告

2022年9月30日  
主査 木守岳広

### 1. 社会インフラ部会活動主旨

本部会は、社会インフラに携わる方々、V Eを実際の業務や身の回りの題材に活用したい方々を対象として、様々な情報交換を行いつつ、下記の(A) (B) 2つの分科会活動を展開します。参加メンバー相互の情報交換と技法の学習と実践を通じて、社会のニーズに応えるV E活動に必要なスキルアップを図り、社会に貢献することを目的とします。

#### (A) 「企業ケース検討会」(リーダー：株式会社I H I・薄衣)

ポーター賞を受賞した企業の分析を基に、優良企業の経営ノウハウを検討します。メンバー全員で作成する優良企業の戦略体系図は、企業経営や新たな商品を検討する際の貴重な資料となります。

#### (B) 「建設V E研究会」(リーダー：パシフィックコンサルタンツ株式会社・木守)

社会インフラの整備やまちづくりにV E手法を適用するための方法や手法を検討し、資料を作成します。「実際にある道の駅」をテーマにV E関連技法を適用し、公共事業の改善ノウハウを共有します。

### 2. 部会活動実施内容

部会登録者には下記の分科会に登録(複数可)していただきます。

#### (0) 社会インフラ部会全体会議：Teams 会議(主査：木守岳広)

全体会議は、東日本支部の催事や他部会活動に関する情報交換や悩み事の解消などを意図した場です。分科会と同日に開催するなど参加者の都合に配慮して行います。

##### ① 第1回 4月27日(水) メンバー紹介、今後の進め方・日程検討

- 部会方針；1. 実課題で成果をだす(V E W S S、社会貢献)
- 2. 新しい適用分野の開発と検証を行う
- 3. 各種の手法を習得する

部会目標；メンバー各位のV Eスキルをアップするとともに社会に貢献する

なお、コロナの状況により、今年度部会は Teams を用いた WEB 会議スタイルを基本とします。

#### (A) 企業ケース検討会：Teams 会議(L：薄衣光明)

ポーター賞を受賞した企業の活動システム・マップを分析し、V Eの視点から成功のポイントを明確にし、成果を報告することにより、企業の価値創造に寄与することを目的とします。

- ① 第1回 5月18日(水) ポーター賞受賞企業分析の概要共有、今年度対象企業の決定
- ② 第2回 6月15日(水) トラスコ中山の企業分析を実施、次回対象企業について意見交換
- ③ 第3回 7月13日(水) カチタスの企業分析を実施
- ④ 第4回 8月17日(水) トラスコ中山の系統図を作成、成功ポイントについて意見交換
- ⑤ 第5回 9月14日(水) トラスコ中山の系統図をブラッシュアップ、成功ポイントの整理

#### (B) 建設V E研究会：Teams 会議(L：木守岳広)

S A V E発行の Functional Analysis Guide に沿って、道の駅のFASTを作成します。

- ① 第1回 5月18日(水) FAガイドの内容・疑問点を整理、はじめに～P.10までを実施
- ② 第2回 6月15日(水) FAガイドの内容・疑問点を整理、P.11～P.21までを実施
- ③ 第3回 7月13日(水) FAガイドの内容・疑問点を整理、P.22～P.30までを実施
- ④ 第4回 8月17日(水) FAガイドの内容・疑問点を整理、P.31～P.39までを実施
- ⑤ 第5回 9月14日(水) CHIKARAIZE 関田氏よりFASTに関する講義を受け、意見交換

## 社会インフラ部会 2022 年度後期活動報告

2023年3月1日  
主査 木守 岳広

### 1. 社会インフラ部会活動主旨

本部会は、社会インフラに関わる方々や興味をお持ちの方々を対象に、V E活動の導入や進め方、問題点などを気軽に(A) (B)の分科会にて検討して頂きます。参加メンバーの意見に応えながら、相互の情報交換と実習や技法を勉強するとともに、進化する活動に必要なV Eのスキルアップを図り、社会に貢献することを目標とします。

#### (A) 「企業ケース検討会」(リーダー：株式会社I H I・薄衣)

本検討会では企業活動の解説記事などを材料に、V Eの視点を導入しながら議論を交わし、その具体的な事例におけるポイントを明確にしていく場です。また、それにより、V E思考や論理的思考法の基本的なスキルの向上を図る場でもあります。

#### (B) 「建設V E研究会」(リーダー：パシフィックコンサルタンツ(株)・木守)

本研究会は、建設業界を中心に活躍される方々を対象とし、V E推進上の悩みを話し合い、解決の糸口をつかむとともに、実践活動を実施する等、有益な情報交換や個別テーマについての勉強会を行い、メンバーのV Eスキルアップを図ることを目的としています。

### 2. 部会活動実施内容

#### (0) 社会インフラ部会全体会議

全体会議は、東日本支部の催事や他部会活動に関する情報交換や悩み事の解消などを意図した場です。分科会と同日に開催するなど参加者の都合に配慮して行います。

後期は開催しませんでした。

#### (A) 企業ケース検討会 (L：薄衣光明)

ポーター賞を受賞した企業の活動システムマップを分析し、V Eの視点から成功のポイントを明確にし、成果を報告することにより、企業の価値創造に寄与することを目的とします。

- ① 第7回 10月12日(水) 開催せず
- ② 第8回 11月9日(水) 2022年度ポーター賞受賞企業の情報共有、「カチタス」の戦略分析
- ③ 第9回 12月14日(水) ポーター賞カンファレンス2022の動画視聴、「エレコム」の分析
- ④ 第10回 1月12日(水) 「エレコム」の戦略分析を実施
- ⑤ 第11回 2月8日(水) 「エレコム」の戦略体系図を作成

#### (B) 建設V E研究会 (L：木守岳広)

道の駅へのFASTの適用をテーマに活動を進めました。今年度は Functional Analysis Guide に記載の内容を確認し、FASTへの理解を深めています。

- ① 第7回 10月12日(水) F A S Tダイアグラムの検証、資源マトリクスについて整理
- ② 第8回 11月9日(水) F A S Tの適用例「ガードレール」「擁壁」「図書館」の確認
- ③ 第9回 12月14日(水) F A ガイド付録：よくある質問又は共通する問題の確認
- ④ 第10回 1月12日(水) 第9回会合までの研究内容を総括
- ⑤ 第11回 2月8日(水) 第10回で取りまとめたF A S T作成要領のブラッシュアップ

以上

## VE 情報交流部会 2022 年度前期活動報告

2022 年 10 月 25 日  
主査 高橋 均

### 1. 部会活動主旨

今期よりスタートした本部会は、支部活動の入り口として、VE に関するさまざまな情報交換を行う場とすることを目的に展開する。

### 2. 活動テーマ

参加者会社の VE 活動状況や VE 実施環境を紹介し、各人が直面する課題や疑問点に関し、意見交換や参考情報の提供を行う。

### 3. 部会活動実施内容

- 1) 部会メンバー数 : 11 名 + 事務局 1 名 (主査: 高橋、副主査: 関田)
- 2) 出席率 : 前期約 88% (9 月末時点)
- 3) 上期活動内容と下期計画
  - ・各社の VE の具体的活動状況および VE 専任組織に関する紹介
  - ・その中で各人が感じる課題や問題点を出し、質疑を含め意見交換を実施
  - ・必要に応じ、主査、副主査から事例等紹介
  - ・活動時間 13:30~15:30

開催日	実施内容
4月 —	
5月 25日	今期活動方針の説明、自己紹介、宿題の提示
6月 23日	OR社のVE取り組みの説明およびディスカッション
7月 20日	OB社およびK社VE実施状況の紹介およびディスカッション
8月 25日	N社VE活動状況の説明およびディスカッション
9月 22日	T社およびI社VE組織、活動状況の説明およびディスカッション
10月 26日	OL社のVE取り組みの説明およびディスカッション
11月 24日	KB社VE活動状況の説明
12月 21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各社、各人共通の課題に関するディスカッション</li> <li>VE研修等啓発活動、社内活動幅拡大方法等</li> <li>・東日本支部各部会の活動紹介 等々</li> </ul>
1月 26日	
2月 22日	
3月 —	

### 4) その他

- ・上期を中心に参加メンバー各社の状況が紹介されたことで、後期は共通する課題や興味を持つ事項に関して掘り下げを行いたく考える。
- ・同時に、参加者の希望も聞き、随時必要な情報提供等行う。(事務局と連携)

以上

## VE 情報交流部会 2022 年度後期活動報告

2023 年 2 月 28 日  
主査 高橋 均

### 1. 部会活動主旨

今年度よりスタートした本部会は、支部活動の入り口として、VE に関するさまざまな情報交換を行う場とすることを目的に展開する。

### 2. 活動テーマ

参加者会社の VE 活動状況や VE 実施環境を紹介し、各人が直面する課題や疑問点に関し、意見交換や参考情報の提供を行う。

### 3. 部会活動実施内容

- 1) 部会メンバー数 : 11 名 + 事務局 1 名 (主査: 高橋、副主査: 関田)
- 2) 出席率 : 前期 88% (9 月末時点実績)  
後期 80% (2 月末時点実績)
- 3) 上期活動内容と下期計画
  - ・各社の VE の具体的活動状況および VE 専任組織に関する紹介 (~11 月)
  - ・各社共通する課題の抽出と深堀のテーマ選択 (12 月)
  - ・選択したテーマに関するグループディスカッション (1 月)
  - ・グループディスカッション結果の報告 (2 月)
  - ・活動時間 13:30~15:30

開催日	実施内容
上期各月	メンバー各社のVE取り組みの紹介および課題等ディスカッション
10月16日	
11月24日	
12月21日	共通する課題の抽出と課題の深堀に関する希望調査
1月26日	共通する課題に関するグループディスカッション (2グループ)
2月22日	グループディスカッションの結果報告

### 4) その他

- ・今年度よりスタートした新部会のため、試行を含め実施した部分はあった。
- ・メンバー間のコミュニケーションが深まることで、各人が本部会活動に求めることも見え始めた。
- ・来期からの活動内容をメンバーと共に策定中。

以上

## 資材調達部会 2022 年度前期活動報告

2022年10月27日  
主査 谷口正洋

### 1. 資材調達部会活動主旨

本部会は、資材・調達・購買業務に携わる方々、SCMを学びたい方などを対象に、みなさんから、調達に関する「困りごと」を最初にお伺いし、解決につながるような情報をお互いに交換することを計画・実施している。部会開始にあたり、情報交換希望テーマを収集し、「CSR調達」「調達機能強化」「調達におけるVE活用」の3つのチームに分かれて情報交換を実施している。

情報交換の結果の「気づき、その後のアクション」について、年度の終わりに、各自、簡単に発表することにより、各自のレベルアップ方策の確認などをする予定である。

各社の調達におけるVE活用の様子も、今後毎年、アンケート調査する予定。

### 2. 部会活動実施内容

#### (0) 資材調達部会全体会議（主査：谷口正洋）

2022 年度部会活動の方針決定及び部会メンバーの情報交換を行った。

##### ① 4月20日（水）メンバー紹介、今後の進め方

部会方針：1. 困りごとを最初にお伺いし、解決につながるような情報をお互いに交換

2. 年度の終わりに、情報交換の結果の「気づき、その後のアクション」について各自、簡単に発表

3. 各社の調達部門のVE活用の様子を、アンケート調査（6月に実施済）

#### (A) CSR調達チーム（ファシリテーター：小林信之）

CSR調達の取組みの現状と今後を語り合うことを目的とするチームである。

##### ① 5月25日（水）進め方を議論、まず、各社の状況を共有

##### ② 6月22日（水）CSR調達の認証方法についてアイデア出し

##### ③ 7月20日（水）調査や認証に予想より費用がかかることが判明

##### ④ 9月14日（水）CSR調達の本来の目的について意見交換

##### ⑤ 10月5日（水）CSR調達について機能系統図の検討を開始

#### (B) 調達機能強化チーム（ファシリテーター：瓦間敬一、9月より谷口正洋に交替）

調達機能強化について、今年度は開発購買を中心に語りあうことを目的とするチームである。

##### ① 5月25日（水）進め方を議論し、開発購買、原価低減、VEをキーワードにすると決定。

##### ② 6月22日（水）開発購買について、定義、機能、取組状況、課題が各社で異なると判明

##### ③ 7月20日（水）各社の開発購買についての問題意識の共有

##### ④ 9月14日（水）各社開発購買の経験が浅いので、事例の情報収集を進めることにした。

##### ⑤ 10月5日（水）引き続き、開発購買の事例の情報を共有

#### (C) 調達部門におけるVE活用チーム（ファシリテーター：渡邊直樹）

調達部門におけるVEの活用の現状と今後を語り合うことを目的とするチームである。

##### ① 5月25日（水）進め方を議論し、決定

##### ② 6月22日（水）開発段階で調達部門は、どのように関与すべきかを議論

##### ③ 7月20日（水）開発部門とのかかわりにおける、調達部門のレベルアップの仕組みを議論

##### ④ 9月14日（水）調達部員の相互啓発などについて議論

##### ⑤ 10月5日（水）開発購買に対する調達部門として必要なスキル、知識について議論

#### (D) その他

タイムリーな状況把握として9月に、「無記名の値上げ対応アンケート」を実施。 以上

## 資材調達部会 2022 年度後期活動報告

2023年3月8日  
主査 谷口正洋

### 1. 資材調達部会活動主旨

本部会は、資材・調達・購買業務に携わる方々、SCMを学びたい方などを対象に、みなさんから、調達に関する「困りごと」を最初にお伺いし、解決につながるような情報をお互いに交換することを計画・実施している。部会開始にあたり、情報交換希望テーマを収集し、「CSR調達」「調達機能強化」「調達におけるVE活用」の3つのチームに分かれて情報交換を実施している。

情報交換の結果の「気づき、その後のアクション」について、年度の終わりに、各自、簡単に発表することにより、各自のレベルアップ方策の確認などを行っている。

各社の調達におけるVE活用の様子も、毎年、アンケート調査をしている。

### 2. 部会活動実施内容

前期に引き続き、チーム活動を継続し、最終2回で、部会として、各チームからの報告会、各メンバーからの「気づき、その後のアクション」の報告会、を実施した。

#### (A) CSR調達チーム（ファシリテーター：小林信之）

CSR調達の取組みの現状と今後を語り合うことを目的とするチームである。

##### ① 10月5日（水）「調達活動を通じて持続的な社会に貢献する」の機能系統図作成を開始。

##### ② 11月9日（水）上記の機能系統図の作成

##### ③ 12月21日（水）上記の機能系統図の作成

#### (B) 調達機能強化チーム（ファシリテーター：瓦間敬一、9月より谷口正洋に交替）

調達機能強化について、今年度は開発購買を中心に語りあうことを目的とするチームである。

##### ① 10月5日（水）開発購買の事例の情報を共有

##### ② 11月9日（水）開発購買の重要成功要因について議論

##### ③ 12月21日（水）各社の開発購買について重要成功要因を切り口にして分析し意見交換

#### (C) 調達部門におけるVE活用チーム（ファシリテーター：渡邊直樹）

調達部門におけるVEの活用の現状と今後を語り合うことを目的とするチームである。

##### ① 10月5日（水）相互啓発の取組み、購入先を巻き込んだVE活動に関する意見交換

##### ② 11月9日（水）開発購買に関する資材部門としての必要なスキルや知識の意見交換

##### ③ 12月21日（水）開発購買について必要なマインドなどを議論

#### (D) その他

タイムリーな状況把握としてアンケートを実施し、意見交換を行った

##### ① 各社の調達部門におけるVEの活用状況についてのアンケート

##### ② 各社の値上げ対応状況についてのアンケート

##### ③ 各社の間接材の調達の状況についてのアンケート

#### (0) 資材調達部会全体会議（主査：谷口正洋）

##### ① 1月25日（水）上記のA、B、C、3チームの情報交換成果の報告会を実施した。

合わせて、次年度の参加希望者への傍聴の機会とした（新規5社参加）。

##### ② 2月22日（水）情報交換の結果の「気づき、その後のアクション」について、各メンバーから発表していただき、各自のレベルアップ方策の確認を実施した。同時に次年度の部会への要望のヒアリングを実施した。

以上

## VE 初心者のためのスキルアップ研究会 2022 年度前期活動報告

2022年10月25日  
主査 佐々 松音

### 1. 活動の背景

新たな部会が発足するなど、東日本支部の部会活動は充実化してきている一方で、『VE 初心者やこれからVEに取り組む企業にとってハードルが高い』という声がある。また、事例研究を中心とした関西地区の研究会に東日本エリアからかなりの人数が参加している。そこで、今年度もVE 初心者層やVE未導入企業に対応するため、2020年度から活動を行っている本研究会【通称：VE 寺子屋】を継続させることに至った。

内容としては、『VE実践のノウハウを学びたい』という要望や、『VEを導入したいが、どのように進めるのが良いかわからない』、『自社に適したVE推進体制や教育プログラムを見出したい』というニーズの受け皿となるよう、メンバーの理解度や実践経験に配慮しながら運営している。

### 2. 運営方針

- ・『共に学び、共に考え、共に成長』を合言葉とし、VEの推進・実践上の悩みや困りごと、課題を持ち寄り、テーマ討議を通じて相互成長を促す。
- ・VEを習得するには実際に「やってみる」ことが効果的であることから、各自で実践活用のテーマと内容を計画し、推進役がテクニカルな部分をサポートすることで「VEを使えるようになる」ことを目指す。
- ・懸案である初心者層の参画を拡大し、各部会にステップアップしていく流れを作ることで東日本支部の活動活性化に貢献する。

### 3. 推進体制

- ・主査【全体統括】：佐々 松音（MSバリューコンサルタント）
- ・ファシリテーター：佐藤 尚吾（パイオニア）、ファシリテーター：染谷 厚徳（首都高速道路）
- ・登録メンバー：社内VEを実践・推進している初心者層（20～50歳代・7社7名）

### 4. 活動内容

研究会は毎月一回（14時～17時）、Teamsのオンラインで開催している。毎回テーマを設定し、そのテーマについて研究討議を行うという実践的な取り組みに軸足を置いている。メンバーだけでなく、推進役にも「学び」と「気づき」がもたらされており、関与する全員がメリットを得られるように運営している。

回	開催日	テーマ	内容
第1回	5月18日	イントロダクション	・メンバー構成と研究会の趣旨や進め方の理解 ・研究会へのメンバーのニーズや抱負の共有
第2回	6月15日	VEとはなんだろう？	・「機能」や「価値」について理解促進
第3回	7月13日	「実践活用」計画のブラッシュアップ	・各自の「実践活用」計画の共有と充実化の検討 ・「実践活用」をVE研修に組み込んだ事例紹介
第4回	8月24日	機能系統図を使ってみよう	・機能系統図の活用についての理解促進
第5回	9月21日	「実践活用」をゴールに導くための作戦を考えよう！	・「実践活用」テーマをゴールに導くための機能系統図の相互レビューとアドバイス
第6回	10月19日	VE思考の風土づくり 【事例紹介】元・TDK(株)企画部人財育成・VE推進課長 小林信之氏	・マンダラートを利用したVE思考の風土づくり

以上

## VE 初心者のためのスキルアップ研究会 2022 年度後期活動報告

2023年 3月 1日  
主査 佐々 松音

### 1. 推進体制（前期と変更なし）

- ・主査【全体統括】：佐々 松音（MSバリューコンサルタント）
- ・ファシリテーター：佐藤 尚吾（パイオニア） 染谷 厚徳（首都高速道路）
- ・登録メンバー：VEの実践・推進に携わるVEリーダークラス（20～50歳代・7社7名）

### 2. 活動内容

後期はVE実践・推進手段の中で、参加メンバーの要望が高かったソフトVEとファシリテーションをテーマアップした。並行して、7月度の研究会において、個々で研究会での学びを実践に活かすための「きっかけづくり」として、VEのアクションプラン【実践活用】を設定し、その目標達成をサポートすることに力点を置いた。より具体的・実践的なテーマを設定したことから、参加メンバーも『VEを使えるようになるには？』を常に意識して活動を進めることができたと思う。

研究会のスタート当初はメンバーからの発言も少なく、ファシリテーターやアドバイザーが適宜メンバーを指名して発言を促すことが多かったが、「二人で意見交換したうえで全体の討議」などの工夫を重ねた結果、非常に前向きで的を射た発言が目立つようになった。

そして、1月度は研究会の学びのまとめとしてVE活動で大切なことを復習し、2月度は主に個々の【実践活用】についてPDCAを報告し合い、相互に今後の課題を見据えて終了した。

回	開催日	メインテーマ	内容
第7回	11月16日	ソフトVEを使ってみよう！	・身近な問題解決へのVE活用 ・総務部のVE活動（パイオニアの事例） ・実践活用の共有、困りごとのアドバイス
第8回	12月14日	ファシリテーションでVEを牽引！	・ファシリテーター参画によるチーム活動の効率化（首都高速道路の事例） ・気づきの重要性和VEの面白さ
第9回	1月18日	今年度の活動まとめ ～VE活動で大切なこと～	・気づきと情報の重要性、夢の実現 ・HN社の改善活動の事例 ・HK社の全社VE活動の事例
第10回	2月15日	成果発表会	・実践活用の報告と今後の課題 ・研究会の総括と今後の取り組みのアドバイス

### 3. 来期に向けて

「共に学び、共に考え、共に成長する」が本研究会のコンセプトである。基本的なスタンスも、有識者などから「教わる」のではなく、有識者の発言やメンバーの活動・意見を通じて「自ら学ぶ」、「自ら気づき、考える」ことによる「成長」に重きを置いている。（教わる場ではなく学びの場）

そのため、VEの知識レベルや実践経験、社内での役割や立場が異なる参加メンバーにとって「最大公約教」となるテーマをどう選ぶか、どのような伝え方をすれば腹落ちしてもらえるかという視点に立ち、参加メンバーにとってより効果上がるよう、常に検討しながら進めてきた。そのような取り組みとメンバーの自助努力で、VEの知識、実践スキルの向上が見られたことは、この上ない喜びである。共に切磋琢磨したメンバーおよびメンバーを参加させてくださった各社の関係者、アドバイザーとファシリテーター各位の協力にお礼を申し上げます。

来期も『意識変革が行動変革をもたらす』という信念のもと、参加メンバーだけでなく、我々推進役も「学び」と「気づき」を心がけ、共に成長できるような運営を心掛けていく所存である。

以上



## 2022 年度 東日本支部運営委員会

支 部 長 薄衣 光明 (I H I)

副支部長 大橋 守 (日立アカデミー)

曾我 行雄 (フジタ)

運営委員 有住 雅子 (三菱電機)

内村 浩之 (ミツバ)

大久保 匠 (富士通ゼネラル)

瓦間 敬一 (L I X I L)

神田 之裕 (リコーテクノロジーズ)

木守 岳広 (パシフィックコンサルタンツ)

小林 信之 (K S I ラボ)

清水 弘幸 (アットマーク・コンサルティング)

運営委員 下村 盛章 (パイオニア)

関 田 力 (C H I K A R I Z E)

高 橋 均 (ライフバリュー・クリエイト)

谷 口 正 洋 (東京電力ホールディングス)

田 谷 英 治 (横河ソリューションサービス)

野 嶋 泰 資 (I H I)

宮 田 徹 (日立建機)

渡 邊 清 彦 (アズビル)

## 東日本支部 基本方針

# ともに学び、ともに創る

2022 年度 東日本支部活動報告書	
発行日	2023 年 3 月 10 日
編 集	公益社団法人 日本バリュー・エンジニアリング協会 東日本支部運営委員会
発行所	公益社団法人 日本バリュー・エンジニアリング協会 〒154-0012 東京都世田谷区駒沢 1-4-15 TEL.03-5430-4488 / FAX.03-5430-4431 URL <a href="http://www.sjve.org">http://www.sjve.org</a>